

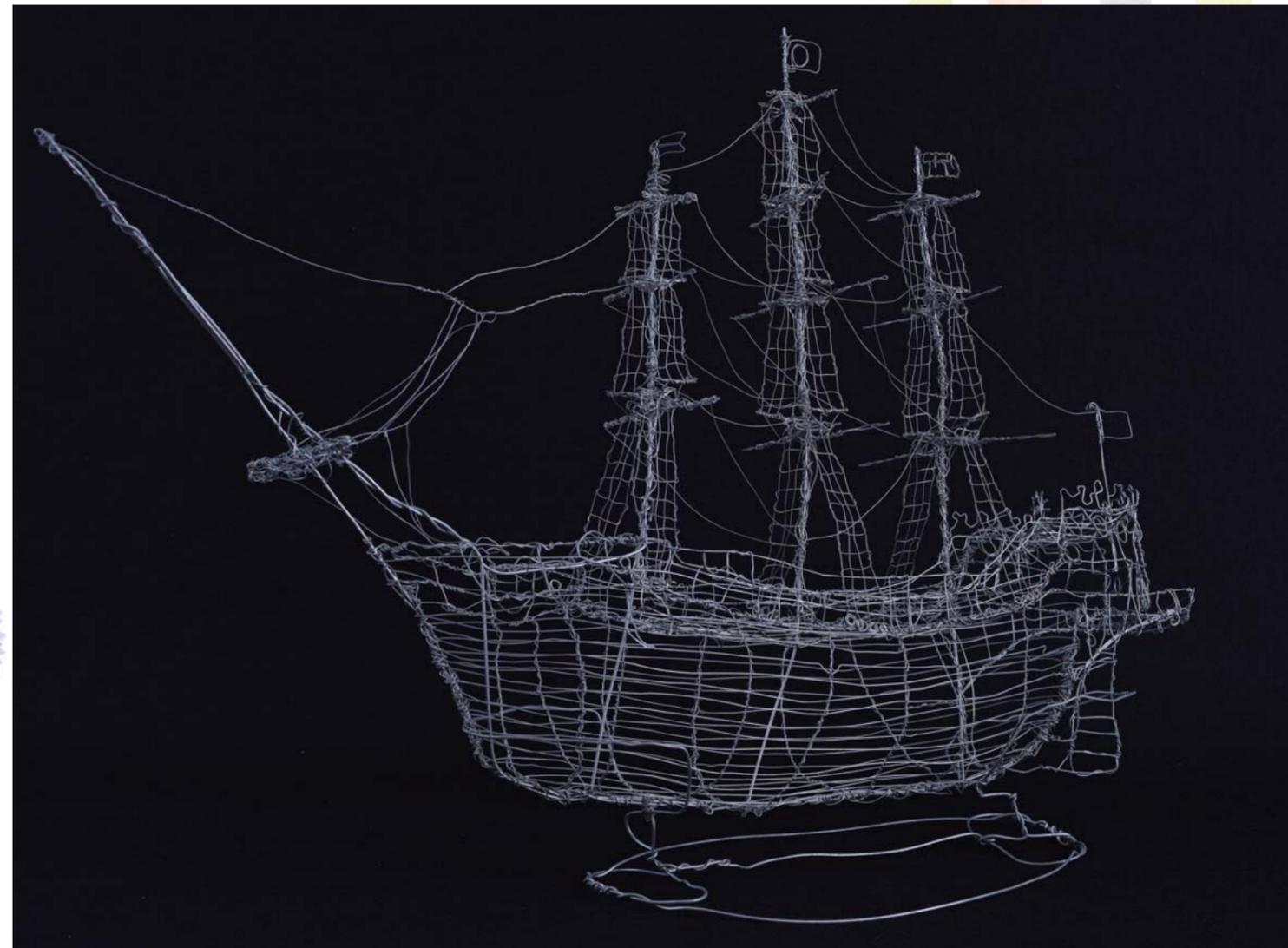
SuMi TRUST With You

スペシャルピック

長い老いを生きる 認知症への新しいアプローチ

キラリ! CSR活動「森の墓苑」巡回ロビー展を開催しています!
～“自然を再生し育てる墓地”をPR～

シニアライフの安心・安全 自宅暮らしのワンポイントアドバイス
～高齢者がターゲットになりやすい詐欺への対策～



「薩摩丸」竹岡 志真

キラリ! CSR活動 「森の墓苑」巡回ロビー展を開催しています!～“自然を再生し育てる墓地”をPR～

昨今の終活ブームに伴い「葬送」の価値観は多様化し、樹木葬や風葬などの新しいお墓のかたちが話題になっています。

「森の墓苑」は、(公財)日本生態系協会が経営主体となり、2016年2月に千葉県長南町にオープンした墓苑です。土砂採掘により森が失われた場所に、墓石や花立てなどの人工物は設置せずご遺骨を土に埋葬、木製の墓碑を置き地元由来の苗木を植えて育てます。苗木が成木に生長すれば、将来は墓苑全体が本物の自然の森になるため、失われた大切な自然を再び美しい森に戻す

新しい墓地事業として注目されています。

三井住友信託銀行では2005年から、環境教育や土地取得のための寄付、信託の仕組みを利用した商品などを通じて(公財)日本生態系協会と連携してきました。

お墓をテーマにしたロビー展は初めての取り組みでしたが“自然を再生するお墓”について知っていただきたいとパネルを作成し、墓苑のある千葉県内の6支店にて巡回ロビー展を開催しました。

パネルをご覧になったお客さまからは、「今の時代に合っていてとても良い」、「環境が気に入ったし、このようなお墓を待っていた」、「子供がいてもお墓の管理ができる場所に住めるとも限らないので、こういう新しい考えはいいですね」などのご感想が寄せられ、大変好評でした。

このロビー展は今後、千葉県以外でも順次開催してまいります。

森の墓苑HP <http://www.morinoben.org/>



森の墓苑 全景

千葉支店でのロビー展の様子

シニアライフの安心・安全 自宅暮らしのワンポイントアドバイス ～高齢者がターゲットになりやすい詐欺への対策～

平成29年版「高齢社会白書」によると、「オレオレ詐欺」の被害者の99%近くが60歳以上の高齢者、そのうちの71%以上が70歳以上の女性でした。最近では「東京五輪」に便乗した手口や、「健康食品」の送りつけ商法、実態のない会社の社債等の「買え買え詐欺」も増えてきています。詐欺被害にあわないためには、ご家族や周りの方々も日頃から高齢者の様子を気にかけて見守ることが必要です。

被害に遭った場合にはすぐに警察と金融機関に連絡をしましょう。「振り込め詐欺救済法」で、口座に残っているお金を上限として被害金額が返ってくる場合があります。また、必要のない契約に気が付いた時には、すぐに消費生活センターに連絡し、相談してください。

(セコム株式会社様が運営する高齢者の相談窓口「セコム暮らしのパートナー久我山」より寄稿いただいております。)

高齢者の詐欺被害を未然に防ぐ4つのポイント

- 1 日頃から家族と詐欺について良く話をしましょう。
- 2 電話でお金の話をしないと約束しましょう。
- 3 家族を装いお金を振り込むようにという電話があった時に備え、「合言葉」を決めましょう。
- 4 電話を常に留守番電話設定にしておき、不審な電話には出ないようにしましょう。

表紙の写真 アール・ブリュット作品紹介 「薩摩丸」竹岡 志真 Shin TAKEOKA 1999年生まれ 兵庫県在住

竹岡氏の作品は、針金のみで作られています。さまざまな太さの針金を巻き付けたり、曲げたり、交差させるなどして出来上がる造詣物は、高さ約10cmほどのものから、長さ60cm近くのものまでさまざまです。

「船」などの作品は、船体の大きな構造体を作ってから細部を制作します。船の甲板には大砲が装備されているものもあります。その大砲は、金属の棒のような物に針金を巻き付け、後でその心棒を抜き取って螺旋状の美しい棒状の物を作るなど細かな作業が見られます。

また、人物像であれば体の芯になる部分を、太めの針金を使って安定した物体として作ります。次に、その芯にさらに針金をグルグルと巻き付けて身体の部分を作り、その後に衣服を纏わせます。

その発想はさまざまで、図鑑などのほかに映画を観た時に購入したパンフレットや、書籍や小説などから連想して造形することもあ

ります。材料の針金はアルミの針金のグレー色と、銅の針金の赤茶色。この2種類を使った作品もあり、2色をバランスよく使って変化を付けています。

(執筆者 ボーダレス・アートミュージアム NO-MA アートディレクター はたよしこ)

※アール・ブリュットとは、「アール(Art)」は芸術、「ブリュット(Brut)」は磨かれていない、加工されていない(生のままの)という言葉を表すフランス語で、正規の美術教育を受けていない人々が独自の発想と方法により制作した作品のことを指します。

協力: 社会福祉法人 愛成会



「アーチェリー」

長い老いを生きる

人類の悲願であった長寿を、世界に先駆けてかなえた日本人の平均寿命は、今や100歳に近づいています。「長くなった老後」という未知の世界では、どのようなことが起きるのか、老いに伴うさまざまな事ごとどのようにつき合っていけばよいのか、一人ひとりが手探りでその答えを探していくことになるのでしょうか。私たちが生きるこの時代を、データで確認しながら、豊かな老いとのつきあい方について、国際長寿センター日本の志藤 洋子事務局長に解説いただきます。



国際長寿センター日本 (ILC-Japan) 事務局長

志藤 洋子氏
高齢者が、社会の半数近くをしめる時代に向けた広啓発活動を行う。ILCはProductive Agingを基本理念に、超高齢社会における新たな価値観の創造と、社会と個人の意識改革に向けた活動を、世界17カ国で行っている。

認知症への新しいアプローチ

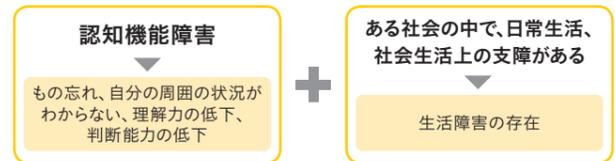
認知症とは

寿命が延び人生90年、100年時代になったのは素晴らしいことですが、加齢に伴ってさまざまな機能が低下し、それが障害となって暮らしが成り立ちにくくなることも起きてきます。

とりわけ認知症は、その不安が大きい病気です。

認知症とは、複数の認知機能の障害により「記憶」をはじめとして、「理解」や「判断」する能力が低下し、自分のいる場所や時間、季節や周囲の状況などが分からなくなり、生活障害(ある決まりをもった日常生活や社会生活上の支障)が発生してしまう病気です。

● 認知症とは



©上野秀樹

認知機能の障害は脳の変性によって起こるもので、さまざまな原因により発症しますが、残念ながら今のところその進行を止める手立てはありません。

トラブルは本人からのメッセージ

認知症最大の問題は、周囲とのコミュニケーションが取りにくくなることです。伝えられない、伝わらないことが原因でさまざまなトラブルが発生し、認知症という病気に対するネガティブな感情や、恐怖が増していきます。

しかし、これらの行動や心理症状(ものを盗られたと訴えたり、妄想がでたり、暴力をふるうなど)は、本人から周囲の人に向けた叫びにも似たメッセージである、と理解されるようになってきました。

例えば、風邪で熱が出たり頭痛がする時に、私たちはそれを自分の言葉で説明し、周りに適切な対応を依頼することができます。

● 認知症の種類と特徴

認知症の種類	原因	主な症状など
(1) 脳の変性疾患		
① アルツハイマー型	脳の神経細胞が変性。アミロイド・ペータと呼ばれる異常なタンパク質が蓄積	・記憶力の低下(もの忘れ) ・時間や場所、季節の感覚の障害 ・空間認識の低下 ・注意機能の低下など
② 前頭側頭型	脳の特に前頭葉と側頭葉の機能障害と萎縮。ピック病を含む。	・判断力や自制心の喪失により万引きなど軽犯罪を犯すことがある ・初期には記憶力は比較的維持
③ レビー小体型	レビー小体という特殊な物質が脳全体に出現	・小刻み歩行や体幹傾斜など、パーキンソン病による認知症とも考えられている ・幻視
(2) 二次性認知症		
① 脳血管性	生活習慣病(特に高血圧や糖尿病)による動脈硬化が基盤となり、脳梗塞や脳出血などの脳血管障害に起因	・脳内病変の部位に対応する、さまざまな認知障害が出現
② 正常圧水頭症性	脳内を循環する髄液が過剰な状態となり、脳を圧迫	・外科的に髄液を排出する手術により改善

©鈴木隆雄(桜美林大学老年学総合研究所所長/大学院教授)

しかし認知症の人は、自分の気持ちや状況を説明することができにくくなっています。気分の悪さからイライラし、それに加えて伝わらない苦しさや切なさも重なって、周りに対する暴力的な振る舞いに及ぶこともあるのです。

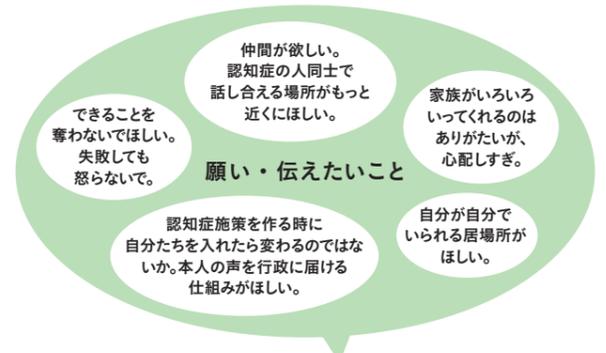
認知症の人を「二度童子(にどわらし)」と呼ぶ地域もあるようですが、言葉を理解できない赤ん坊に再び戻る、ということなのでしょう。しかし、言葉では表現できなくとも快・不快の感情はありますし、周りから疎まれたりバカにされたりしていることは感じ取ることができます。

本人の思いを受け止める

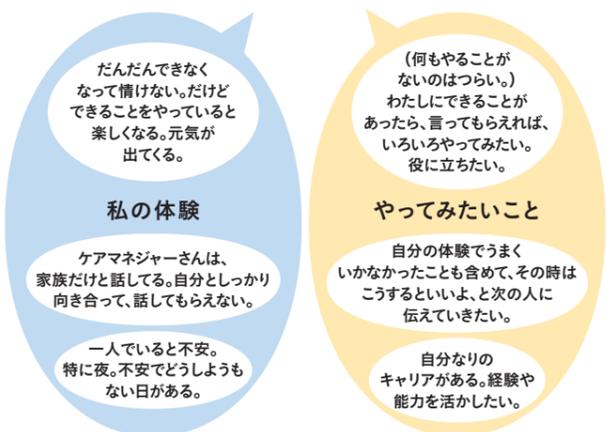
いちばん困惑し、混乱し、悩み苦しんでいるのは本人なので、そのことを理解した上での支援でなければならない、ということが強く言われるようになってきました。

- ・本人が不安にならないように、つながっている安心感を作る
 - ・本人が自分の誇りや、自分らしさを取り戻せるようにする
 - ・本人が表現することを諦めないように、とにかく話す
- まず本人の思いや考えを受け止めること、そのために認知症の本人が組織的に集まって話し合い、自分の考えを表明するような取り組みも始まっています。

● 本人の声・思い



「私、認知症です」といえる社会に



本人ミーティング開催ガイドブック(平成28年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業)「認知症の人の視点を重視した生活実態調査及び認知症施策の企画・立案や評価に反映させるための方法論等に関する調査研究事業」/一般財団法人長寿社会開発センター)

2006年に国連で採択され、2014年に日本でも批准された障害者権利条約に関するさまざまな取り組みの中で、Nothing About Us Without Us(私たちのことを私たち抜きで決めないで)という言葉が、広く使われるようになりました。

認知症に関しても、まさに同じ動きが起きています。

今後の連載予定 第4回 納得できる旅立ちのために

地域で共に支える

日本では2012年に認知症の国家戦略が定められ、その目標は「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で、自分らしく暮らし続けることができる社会の実現」とされています。具体的な7つの活動目標を定め、本人の視点を重視しながら、地域での暮らしが成り立つことを目指しています。

● 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)

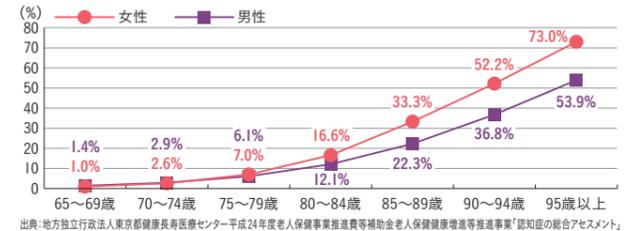
- 1 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- 2 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- 3 若年性認知症施策の強化
- 4 認知症の人の介護者への支援
- 5 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- 6 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
- 7 認知症の人やその家族の視点の重視

他国の国家戦略でも、「認知症になっても地域で暮らし続けること」を前提にした取り組みが重視されており、このような流れは世界で共通のものとなっています。

日本では2004年に「痴呆」から「認知症」へと名称が変わり、2005年には認知症サポーター構想がスタートしました。「認知症サポーター」は地域で認知症の人を支える役割を担う応援者として、一定の研修を受け認知症を理解したうえで、その役割を果たしています。一般市民はもちろん、交通や金融機関の職員、スーパーやコンビニの従業員、小学生向けの養成講座もあります。2020年までに1,200万人の養成が目標とされ、現在は全国で約900万人がその資格を持ち、サポーターの証であるオレンジリングを身につけて地域でのサポートを行っています。

認知症発症の最大要因は老化ですから、寿命の延びに比例して増え続け、誰もが発症する可能性があることとなります。

● 年齢別認知症出現率



自分の問題として考えたときに、むやみに怯えたり、医療に頼るだけでなく、認知症になっても安心して暮らせるように、社会でも支えるという視点での新しいアプローチが始まっていることを、お伝えしておきたいと思います。

今回の発行は、2018年3月初旬の予定です。